

伏見の歴史的地域資産を活用した、かわ・まち・人づくりについて

株式会社 伏見夢工房
観光担当部長 永山 恵一郎

1. 地域資産の眠るまち京都伏見

かつて伏見は「京・伏見」と並び称され、平安時代には風光明媚な土地柄から貴族の別荘が立地し、京都とは異なった独自の文化を築いてきました。安土桃山の時代には豊臣秀吉の伏見城築城に伴い伏見港が整備され、京都・大坂・奈良・近江の中継地となり人や物資、情報等の集積地として全国的な港町となります。また城下町として全国各地の有力大名が屋敷を立て、大名たちに呼び寄せられた様々な商工業者も伏見に集まりました。江戸時代に入ると徳川家も街道と水運の集中する伏見を重視し貨幣経済の中心「銀座」等を立地。伏見はその交通の利便性から幕府公認の三十石船や二十石舟等多くの舟が往来し宿場町として賑わい一大消費地を形成。良質の地下水にも恵まれたこともあり酒造りが盛んになり、酒の町としても全国有数のまちとなります。幕末には西国大名は作物の換金と情報収集のため伏見に屋敷を構え、坂本龍馬もそうした土地柄ゆえに伏見を訪れました。しかし、「鳥羽伏見の戦い」でまちは焼け野原となります。昭和3年には伏見町から伏見市となり昭和6年京都市と合併します。

このような歴史の流れを持つ伏見は、河川、酒蔵、国の歴史的建造物、史跡、社寺仏閣、城下町の名残を残す町名、町屋等数多くの歴史的地域資産に恵まれているのですが、数年前まではそのような資産を地元ではあまり意識されていないのが現状でありました。特にまち中を流れる濠川・宇治川流派等河川においては、まちの歴史を形成していった重要なキーワードと成るべき資産なのですが、平成の初め頃までは、バイク、冷蔵庫、タンス、便器等不法投棄のゴミであふれ、その多くは地元の方々が捨てているという荒廃した状態でした。当時、伏見観光協会専務理事就任間もない私は水のまちといわれる伏見の河川がこのような現状であることへの疑問と、地域の方々はこのような状況をどのように考えているのだろうと、自らゴミで溢れた河川に入りゴミを引き上げて行くことを始めました。しかし、いくら独りの人間がゴミを引き上げても次の日にはまた新たなゴミが投棄されているという繰り返しの状態が続



図-1 十石舟

きます。このままでは河川を含め数多くの歴史的な地域資産があるまちにもかかわらず地域の方々がそれに気づかず、かわ・まちが荒廃していく事に不安を覚え、地域に眠る資産に光をあて全国に誇れるまちであるという地域内の誇りづくりを考えるようになりました。

2. 郷土愛づくり・人づくり

京都市中とは異なった文化を形成してきた伏見のまちにはこのまちにしかない歴史的な地域資産が数多くあります。まちがひとつとなり、かわを含めたまちづくりを積極的に考え、郷土愛の輪を拡げていかなければならないと考え、その方法としてひとつひとつの歴史的な地域資産に光をあてながら地域に合ったスピード感で地域と一緒に事業を展開していくことが重要だと考えています。

私自身は、27年前より発行している地域のポテンシャルを地域の人々にメッセージしていこうと考え発行した地域誌「THE伏見」、郷土史「伏見くれたけの里」の発行や様々なイベントの企画運営などを行いながら、このまちの人々と関わりをもち現場で実際に動きながら実例を示せるようなかたちで歴史的な

域資産をクローズアップしていくことを行っています。また事業を実現していく上で国・府・市等と連携をとれる体制づくりを行い、地域と行政とをつなぐ橋渡し役の必要性を感じ、時間をかけそのような体制づくりを行い、現在、自らがその役割を行っています。

同時に重要であると考えていることは、地域に合ったかわ・まちづくりビジョンを持ち具現化していくために旗振り役のできる人、地域内の温度差を見極めそれに即した時間軸を考慮し的確に実行していける人、地域と行政とのコーディネート役のできる人等の次世代に必要な人づくりと、地域が一丸となっていくためのコンセンサス形成、ネットワーク形成を行っていく事です。

3. 地域資産を活用したかわ・まち・人づくり

ここでは現在まで行ってきた取り組みを一部ご紹介していきます。

■ 十石舟運航

○実施時期：平成6年～現在

○内容：港町伏見の復活再現。まちに流れる河川を舟運する歴史船十石舟の運航。

○ポイント：港町であったという地域の歴史的史実、地域資産である河川を再認識し、地域に伝承し続けることで郷土愛づくりを行う。

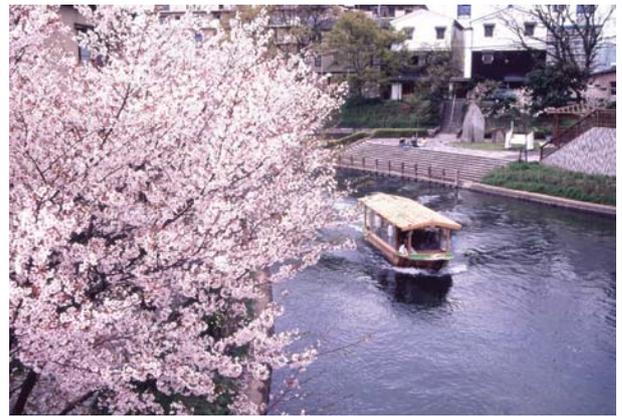
この事業により地域内では河川への不法投棄が無くなり、地域外からは伏見の水辺空間に足を運ぶ方が年々増え始める。(年間乗船客数：約35,000人)

■ 定期的継続的河川清掃活動

○実施時期：平成6年～現在



図－2 河川清掃活動



図－3 河川桜

○内容：毎年、春と秋の2回地域の方々の自主的な参加のもと河川清掃クリーンアップを開催。

○ポイント：地域生活者、地域団体、小学校等地域から参加者を募り、地域全体を巻き込んだ定期的な活動として継続的に開催。

この事業により地域内では河川が地域資産であることを再認識し、地域外からは河川が美しくなったという声が聞かれるようになる。

■ 河川への桜・ユキヤナギ植樹

○実施時期：平成14年～現在

○内容：地域の方々と共に河川へ桜約150本ユキヤナギ約1,000株を植樹。以後保守管理を地域の方々と行う。

○ポイント：河川を長期的視点で捉え将来像を地域の方々と考えていき、具現化する方法として地域奉仕団体と連携を図る。

この事業により地域内ではより良い水辺空間づくりを長期的視点で考えていく意識が生まれ、地域外からは季節感の感じられる水辺空間だという声が聞かれるようになる。

■ 第3回世界水フォーラム伏見港

○実施時期：平成15年3月

○内容：京都府、京都市と連携し京都で開催された第3回世界水フォーラムのイベントを伏見で開催。

○ポイント：地域が主役、実行側となれる取り組み内容を企画実施することで地域内のムーブメントを創り出す。

この事業により地域内では取り組みを具現化していくことを体感し、かわ・まちづくりへの関り方の可能性を意識した声が聞かれるようになる。地域外



図-4 三栖閘門

においては広範囲の方々に伏見の地域資産についての認識が生まれる。

■ 水辺とのふれあい三栖閘門オープニングイベント

○実施時期：平成15年3月

○内容：国の管理する地域資産である三栖閘門が約40年ぶりに地域の憩いの広場「伏見みなと広場」として復活。広場計画段階から委員として意見交換、地域コンセンサス形成を行い、オープニングのイベントを実施。

○ポイント：伏見地域資産「十石舟」と国の資産とを結び相乗効果を生み出す。「伏見みなと広場」内に「十石舟」乗船場の設置を実現。

この事業により地域内ではかわ・まちづくりに対する積極的な意見が増加、地域コンセンサス形成の方向性が生まれはじめる。地域外からは全国有数の歴史資産に触れる驚きと、河川、舟運に対しての理解関心が新たに高まる声が聞かれるようになる。

■ 京都伏見ジュニア河川レンジャー

○実施時期：平成15年～現在

○内容：地域内小学校と連携し、小学校4年生を対象とした河川での体験学習。

○ポイント：国の施策である「河川レンジャー」制度を地域内人づくりとネットワークづくりへとつなげ具現化。子どもを対象とすることによりその保護者の参画を促す。

この事業により地域内ではまちの地域資産河川等を話題とする家庭内、学校内でのコミュニケーションが生まれる。現在まで約1,300名の京都伏見ジュニア河川レンジャーが誕生。

■ 三十石船運航

○実施時期：平成16年～現在

○内容：十石舟よりひとまわり大きな歴史船「三十石船」の運航。

○ポイント：活用されていなかった京都府所有の「三十石船」を京都府と連携し有効活用。多角的な視点で眠っている地域資産を発見し活用していく。

この事業の頃より地域内では誇りをもって知人、親戚等来訪者を招く方々が増加。地域外からはゆったりと落ち着いた時間を過ごせる水辺だという声が聞かれる。

■ 伏見リバースクール

○実施時期：平成16年～現在

○内容：地域内外から一般小学生親子を対象に参加者を募り河川体験学習を実施。

○ポイント：地域内外広範囲の方々へ河川への意識啓発を行っていくとともに幅広い視点での意見を聞き取り、以後の取り組みに活用していく。

この事業により地域内参加者からは河川近隣に住んでいなくとも河川やまちの地域資産に対する意識の芽ばえの音が聞かれ、地域外参加者からは伏見で改めて自身のまちの河川について意識を持ったという声が聞かれた。

■ 伏見万灯流し—(鳥羽伏見の戦い慰霊祭)

○実施時期：平成16年～現在



図-5 京都伏見ジュニア河川レンジャー活動

○内容：鳥羽伏見の戦いの地という史実を含めながら、夏の水辺の風物詩として河川での灯ろう流しを実施。約1,500基の灯ろうを献灯。

○ポイント：歴史的史実の伝承とともに、事業実施において地域を巻き込み新たなネットワークづくりを行う。

この事業により地域内では水辺空間を利用したまちづくりの新たなネットワークが生まれる。地域外からは水辺空間を新たな視点で考えることができたという声が聞かれる。

■ 河川への紫陽花・紅葉・ユキヤナギ植樹

○実施時期：平成17年～現在（3年計画を予定）

○内容：国と連携を図り3年計画で地域内河川へ紫陽花約3,600本、紅葉約200本、ユキヤナギ約600本を地域の方々や京都伏見ジュニア河川レンジャーとその親子で植樹。保守管理を地域で行っていく。

○ポイント：地域資産である河川へ地域の方々自らが長期的、積極的に関っていきける取り組みを計画。

この事業の頃から地域内よりかわ・まちづくりへの積極的な参加を希望する声が増加。地域外来街者からは伏見の河川は美しく気持ちの良い河川であるという声が聞かれる。

■ 河川水辺ライトアップ

○実施時期：平成17年～現在

○内容：桜の時期、紫陽花の時期、そして夏場の時期河川を夜間ライトアップし夜間水辺空間の新たな賑わいを生み出す。同時期に十石舟の夜間運航を実施。

○ポイント：季節感のある水辺の新たなクローズアップとともに夏場枯渇期の来街者減少にも前向きな対策を打ち出す。事業実施にあたっては地域の方々



図－6 万灯流し



図－7 河川ライトアップ

と協力体制をつくり実施。

この事業の頃より地域内のかわ・まちづくりに対する意識がまとまりつつある。地域外からは伏見は賑わいのあるまちだという声が聞かれる。

■ 港町・宿場町・城下町・酒蔵の町

伏見ブランド商品開発プロモーション

○実施時期：平成18年～(進行中)

○内容：歴史的地域資産をクローズアップし、伏見オリジナルブランド商品の開発。

○ポイント：淀川舟運という広域的視点で伏見より発信できるブランド商品を民間企業と連携し開発。商品創出の過程から販売に至るプロモーションまで地域を巻きこみ展開していく。

今後、他の民間企業とも連携し2品目、3品目と開発を予定。

以上のような取り組みを地域の方々とともに、ていねいにコンセンサス形成を行いながら継続して実施することを重ねた結果、荒廃していた河川は季節感のある美しい水辺空間へと変わり、河川への不法投棄は無くなりました。現在では、河川流域町内会の方々より河川美化委員会組織の提案までいただけるようになり、その取り組みの内容や協力体制等を先日、河川管理者を交え話し合いを始めました。

私は事業を立案実施していますがあくまで、このまちが成長していくためのコーディネイト役であり黒子のような役割だと思っています。河川を含んだ歴史的地域資産に光をあて郷土愛の輪をひろげ、次世代の人たちにも誇りを持って暮らせるまちになってほしいと望んでいます。